

原著：秋田大学医学部保健学科紀要11(2)：119-126, 2003

看護大学生の看護に対するイメージ —入学時における家族背景・入学動機と卒業後進路志望との関連から—

工藤 由紀子 石井 範子 平元 泉
佐々木 真紀子 長谷部 真木子

要 旨

本研究の目的は、看護大学生の入学時の看護イメージの調査を通して、入学時における家族背景・入学動機と卒業後進路志望との関連について検討することである。本学看護学専攻学生71名を対象として、看護イメージに関する20の形容詞対を学生に提示し調査を実施した。その結果、看護大学生の看護イメージは、「自由な」以外のすべての項目で4.0以上であり、全体に好イメージ寄りであった。因子分析の結果、『看護の特性因子』『看護の価値因子』『看護師の外観因子』『看護の労働性因子』『看護師の知的因子』の5因子が抽出された。家族背景では、看護職に従事している人が身近にいる学生の方が好イメージ寄りであった。さらに、家族背景あり群および動機付け大群で、将来ベッドサイドケアを中心とする看護職を希望する特徴があることが明らかとなった。

はじめに

看護学生の卒業後の職業選択には、看護師・看護の仕事内容などに対する看護イメージが影響すると考えられ、さまざまな角度から検討されている。看護短大生を対象とした研究の中で、大石ら¹⁾は、短大生の看護イメージの変容を入学から卒業まで縦断的に検討し、入学直後に抱いていた看護婦イメージのいくつかは卒業前にはより現実的なものになっていたと述べている。鶴田ら²⁾は、看護短大生1～3年生の看護婦イメージを横断的に調査し、1年生のほうが3年生よりもポジティブなイメージを抱いていること、また「科学的」の項目については3年生のほうが1年生よりポジティブなイメージを抱いていたと報告している。石井ら³⁾は、看護短大生の基礎看護学見学実習前後の看護イメージの変化を調査し、看護婦にあこがれて入学した学生の方が、あこがれ以外の理由で入学した学生に比較すると、看護に対するイメージが見学実習前では有意に好意的であるが、見学実習後では大きな差は見られな

かったと述べている。さらに石井⁴⁾は、短大と専修学校3年課程、専修学校2年課程の学生を対象とした入学時の看護イメージの比較において、専修学校2年課程の学生がより「労が多い」とみていないこと以外は、ほぼ同様であったと述べている。藤田ら⁵⁾は、看護と看護系以外の学科間で職業イメージを調査し、看護婦・士に対してはいずれの学科の学生も多忙で体力が必要なイメージが強かったと述べている。さらに、上記のどの先行研究においても、看護短大生の看護イメージは全体的に好イメージ寄りであったと報告されている。一方、4年制の看護系大学の設置が増えている中で、看護大学生の看護イメージについて細やかに調査されている研究はまだ少ない⁶⁻¹⁰⁾。本学は平成14年に改組され、医学部保健学科となり、平成15年度に一期生を迎えた。そこで、本学の看護学専攻学生に対する今後の教育への示唆を得るために、入学時における看護イメージについて調査し、さらに卒業後の進路志望について家族背景や入学動機別に比較して検討を加えたのでここに報告する。

秋田大学医学部保健学科看護学専攻

Key Words: 看護学生
看護イメージ
入学動機
進路志望

研究目的

本学看護大学生の入学時の看護イメージを調査し、入学時における卒業後進路志望と家族背景・入学動機との関連について検討して今後の教育への示唆を得る。

対象と方法

1. 研究対象および調査実施時期

研究対象は、2003年に入学した秋田大学医学部保健学科看護学専攻の学生71名とした。調査実施時期は、入学後間もない4月初旬とした。

2. 調査用紙の構成と調査方法

現在の看護イメージ、家族背景、入学動機、卒業後の進路志望について質問紙を用いた。質問紙の内容に関して、看護に対するイメージについては、石井ら³⁴⁾の研究をもとに、「責任感の強い－無責任な」「重要な－重要でない」などの20の形容詞対を提示した(図1)。イメージの測定はSD法による7段階評定法で行った。家族背景では、看護職に従事している人が身近にいるかどうか、さらに、看護職に従事している人がいる場合には、その内訳を調査した。入学動機では、「看護職にあこがれたから」「家族・教師にすすめられたから」「なんとなく」などの8つの選択肢を設けた。卒業後の進路志望では、「看護師として就職」「保健師として就職」「大学院に進学する」などの6つの選択肢を設けた。調査は、看護職種についての概要を説明した後、一斉回答方式により実施した。

3. データの集計・分析方法

1) 家族背景、入学動機、卒業後の進路志望について
家族背景、入学動機、卒業後の進路志望について単純集計を行った。また、家族背景について、看護職に従事している人が身近にいるものを家族背景あり群とし、そのほかを家族背景なし群として分類した。入学動機については、「看護職にあこがれたから」のように主体的に看護職を選択したことを意味するものを動機付け大群とし、「なんとなく」「人から勧められて」などのように、自らの意志というよりも他からの勧めなどで入学したことをあらわしているものを動機付け小群として分類した。卒業後の就職志望について、ベッドサイドケアを中心とする看護師、助産師を志望しているものを看護・助産師群とし、保健師・養護教諭・大学院進学などをその他群として分類した。家族背景および入学動機別に、卒業後の進路志望を χ^2 検定を用いて比較した。また、家族背景別に入学動機を χ^2

検定を用いて比較した。

2) 看護イメージについて

看護イメージについて、各尺度の各段階で好感度が高いほど評定値が大きくなるように7段階で評定し、各尺度の平均点を算出した。看護イメージの各尺度の評定平均値について、家族背景・入学動機・進路志望別に対応のないt検定による比較を行った。また、学生全体の看護イメージについて、バリマックス法により因子分析を行い、因子を抽出し、因子得点を算出した。各因子の因子得点の平均値について、家族背景・入学動機・進路志望別に対応のないt検定を行い比較した。

なお、データの集計・分析については、SPBS統計パッケージ¹²⁾を用いた。

4. 倫理的配慮

学生には、調査内容を研究に用いること、提出の有無が成績に影響しないことを説明し、同意を得られたものを回収した。

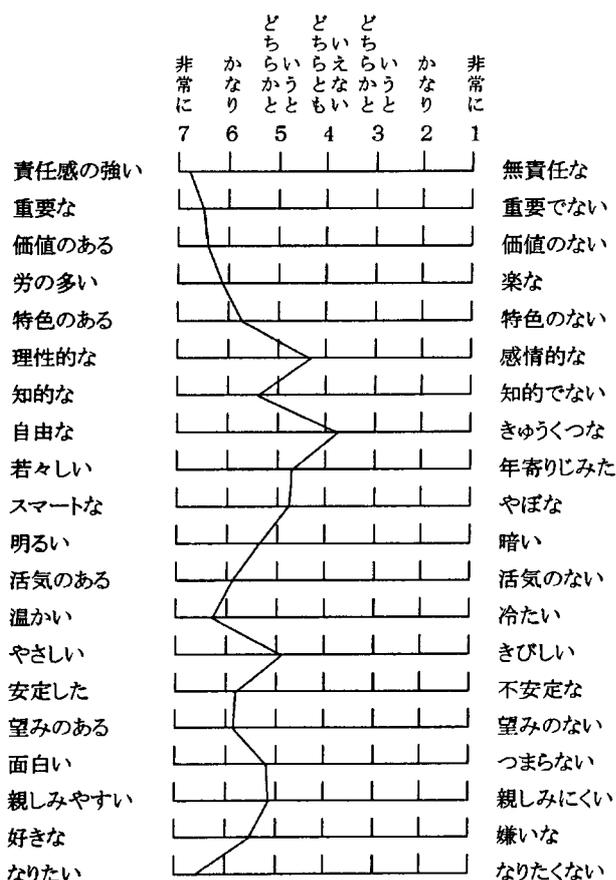


図1 看護大学生の看護イメージプロフィール

結 果

調査用紙の回収は71名（回収率100%）、有効回答は69名（有効回答率97.2%）であった。

1. 家族背景・入学動機と卒業後の進路志望との関連

調査対象全体での家族背景の内訳は、家族背景あり群25名（36.2%）、家族背景なし群は44名（63.8%）であった（表1）。家族背景あり群の内訳は、母親が5名（20.0%）、祖母が1名（4.0%）、叔母が9名（36.0%）、その他が10名（40.0%）であった。入学動機について、動機付け大群は46名（66.7%）、動機付け小群は23名（33.3%）であった。卒業後の進路志望は、看護師42名（60.9%）、助産師5名（7.2%）、保健師11名（16.0%）、養護教諭1名（1.5%）、大学院5名（7.2%）、その他5名（7.2%）であった。家族背景別の卒業後の進路志望内訳（表2）は、家族背景あり群25名のうち、看護師18名（72.0%）、助産師3名（12.0%）、保健師3名（12.0%）、その他1名（4.0%）であった。家族背景なし群44名の進路志望内訳は看護師24名（54.5%）、助産師2名（4.5%）、保健師8名（18.2%）、養護教諭1名（2.3%）、大学院5名（11.4%）、その他4名（9.1%）であった。家族背景別に進路志望を比較した結果（表3）、家族背景あり群において看護・助産師を志望する学生が有意に多かった（ $p<0.05$ ）。入学動機別に見ると（表4）、動機付け大群46名の卒業後の進路志望内訳は看護師31名（67.4%）、助産師4名（8.7%）、保健師8名（17.4%）、大学院3名（6.5%）であった。動機付け小群23名の卒業後の進路志望内訳は看護師11名（47.8%）、助産師1名（4.3%）、保健師3名（13.1%）、養護教諭1名（4.3%）、大学院2名（8.7%）、その他5名（21.8%）であった。入学動機別に進路志望を比較した結果（表5）、動機付け大群において看護・助産師を志望する学生が有意に多かった（ $p<0.05$ ）。

また、家族背景と入学動機には関連は見られなかった（表6）。

表1 看護大学生の背景別集計結果

(n=69)		
家族背景	背景あり群	※ 25(36.2)
	背景なし群	44(63.8)
入学動機	動機付け大群	46(66.7)
	動機付け小群	23(33.3)
卒業後の進路志望	看護師	42(60.9)
	助産師	5(7.2)
	保健師	11(16.0)
	養護教諭	1(1.5)
	大学院	5(7.2)
	その他	5(7.2)
人数(%)		

表2 家族背景別の進路志望内訳

家族背景あり群 (n=25)	看護師	18(72.0)
	助産師	3(12.0)
	保健師	3(12.0)
	養護教諭	0(0)
	大学院	0(0)
	その他	1(4.0)
家族背景なし群 (n=44)	看護師	24(54.5)
	助産師	2(4.5)
	保健師	8(18.2)
	養護教諭	1(2.3)
	大学院	5(11.4)
	その他	4(9.1)
人数(%)		

表3 家族背景別の進路志望比較

	家族背景あり群	家族背景なし群	計
看護・助産師	21(30.4)	26(37.7)	47(68.1)
その他	4(5.8)	18(26.1)	22(31.9)
計	25(36.2)	44(63.8)	69(100)

df=1 χ^2 値4.554 $p<0.05$

表4 入学動機別の進路志望内訳

動機付け大群 (n=46)	看護師	31(67.4)
	助産師	4(8.7)
	保健師	8(17.4)
	養護教諭	0
	大学院	3(6.5)
	その他	0
動機付け小群 (n=23)	看護師	11(47.8)
	助産師	1(4.3)
	保健師	3(13.1)
	養護教諭	1(4.3)
	大学院	2(8.7)
	その他	5(21.8)
人数(%)		

表5 入学動機別の進路志望比較

	動機付け大群	動機付け小群	計
看護・助産師	35(50.7)	12(17.5)	47(68.2)
その他	11(15.9)	11(15.9)	22(31.8)
計	46(66.6)	23(33.4)	69(100)

df=1 χ^2 値4.037 $p<0.05$

表6 家族背景別の入学動機比較

	家族背景あり群	家族背景なし群	計
動機付け大群	20(28.9)	26(37.7)	46(66.6)
動機付け小群	5(7.3)	18(26.1)	23(33.4)
計	25(36.2)	44(63.8)	69(100)

df=1 χ^2 値3.136

2. 看護イメージについて

イメージプロフィールは、「自由な」が 3.72 ± 0.83 点である以外はすべての項目の評定値が4.0以上であり、全体に好イメージ寄りであった(図1)。

1) 看護イメージ20尺度の評定平均値における家族背景・入学動機・進路志望別の比較

看護イメージ20尺度の評定平均値について、家族背景別・入学動機・進路志望別に比較すると、家族背景別では「重要な」($p < 0.01$)、「価値のある」($p < 0.05$)、「特色のある」($p < 0.05$)、「面白い」($p < 0.01$)、「なりたいたい」($p < 0.05$)において、家族背景あり群の得点のほうが有意に高かった(図2)。入学動機別では、「温かい」($p < 0.05$)において、動機付け大群の得点のほうが有意に高かった。進路志望別では、「なりたいたい」($p < 0.05$)において、看護・助産師群の得点のほうが有意に高かった。

2) 看護イメージの因子構造と因子得点の比較

因子分析では、累積寄与率36.1%で5因子が抽出され命名した(表7)。第1因子は、「面白い・親しみやすい・特色がある」等の8項目からなる『看護の特性因子』、第2因子は「価値のある・重要な」等の6項目からなる『看護の価値因子』、第3因子は「若々しい・明るい」の2項目からなる『看護師の外観因子』、第4因子は「労の多い・自由な」の2項目からなる『看護の労働性因子』、第5因子は「理性的な・知的な」の2項目からなる『看護師の知的因子』であった。調査項目全体のクロンバック α 係数は0.67であった。

第1因子から第5因子までの因子得点を家族背景・入学動機・進路志望別に比較すると、家族背景別で1因子に有意差がみられた(表8)。第1因子の『看護の特性因子』で、家族背景あり群のほうが家族背景なし群よりも因子得点が高かった($p < 0.05$)。入学動機・進路志望別では因子得点に差がなかった。

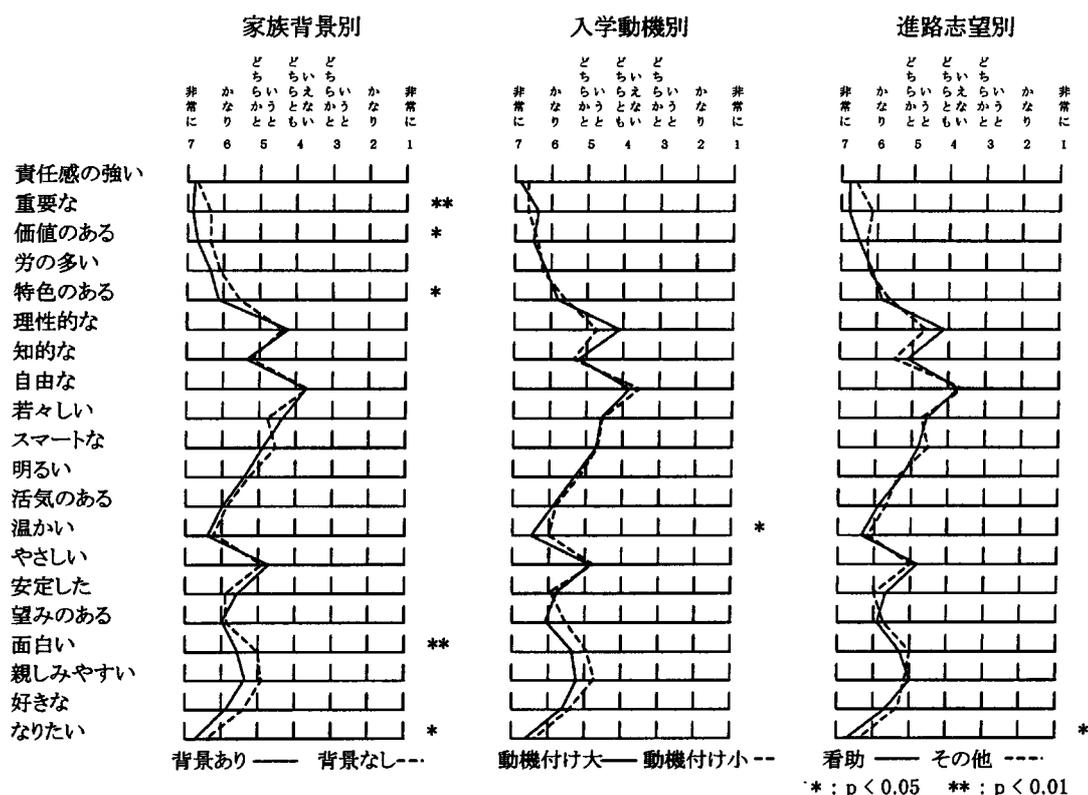


図2 背景別の看護イメージプロフィール

表7 看護大学生の看護イメージの因子構造

項目	因子	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
		看護の特性因子	看護の価値因子	看護師の外観因子	看護の労働性因子	看護師の知的因子
1	面白い — つまらない	0.519	0.035	0.051	0.155	0.095
2	活気のある — 活気のない	0.586	0.008	0.219	-0.197	0.011
5	好きな — 嫌いな	0.494	-0.019	0.039	0.086	-0.006
7	親しみやすい — 親しみにくい	0.307	0.090	0.137	-0.112	-0.127
8	スマートな — やぼな	0.346	0.039	-0.031	0.140	0.115
15	望みのある — 望みのない	0.645	0.193	0.118	0.098	-0.278
16	特色のある — 特色のない	0.560	0.253	0.058	-0.224	-0.192
17	温かい — 冷たい	0.397	0.301	0.282	0.221	-0.079
3	安定した — 不安定な	-0.003	0.264	0.141	0.029	0.071
9	価値のある — 価値のない	0.295	0.595	-0.246	-0.050	0.081
12	重要な — 重要でない	-0.133	0.475	-0.077	-0.200	-0.042
13	責任感の強い — 責任感のない	0.244	0.589	0.016	0.058	0.105
14	なりたいたい — なりたくない	0.370	0.387	-0.074	0.259	-0.282
19	やさしい — きびしい	0.073	0.449	0.402	0.169	-0.309
6	若々しい — 年寄りじみた	0.030	0.016	0.484	-0.082	0.045
11	明るい — 暗い	0.303	-0.099	0.655	0.034	0.042
4	労の多い — 楽な	0.046	0.039	0.038	-0.440	0.058
18	自由な — きゅうくつな	0.184	0.047	0.017	0.702	0.081
10	理性的な — 感情的な	-0.168	0.007	0.007	-0.027	0.521
20	知的な — 知的でない	0.291	0.243	0.112	0.064	0.548
寄与率(%)		12.5	8.1	5.5	5.3	4.7
累積寄与率(%)		12.5	20.6	26.1	31.4	36.1

考 察

看護大学生の看護イメージを把握し、入学時における家族背景・入学動機と卒業後の進路志向との関連について検討した。

1. 家族背景・入学動機と卒業後の進路志向との関連

家族背景別に進路志向を比較した結果、看護職に従事している人が身近にいる学生の方が看護師・助産師を志望する人数が多かった。このことから、看護職に従事している人が身近にいる学生は、身近にいない学生よりも、看護職者や看護の内容についてより具体的なイメージを抱くことができているのではないかと考えられた。またそれゆえ、卒業後の進路志向として、看護師・助産師のようなベッドサイドケアを中心とする看護職を志望する学生の割合が高くなったものと考えられる。また、入学動機別に進路志向を比較した結果、動機付け大群かつ看護・助産師群の学生の人数が有意に多かった。このことから、「看護職にあこがれたから」などの積極的な動機付けがある学生ほど、ベッ

表8 大学生の看護イメージ因子得点の背景別比較

因子	F 1 看護の特性因子	F 2 看護の価値因子	F 3 看護師の外観因子	F 4 看護の労働性因子	F 5 看護師の知的因子
家族背景別					
家族背景あり群	0.313	0.159	-0.127	-0.071	-0.008
家族背景なし群	-0.178	-0.090	0.072	0.040	0.004
入学動機別					
動機付け大群	0.124	0.031	0.022	0.097	-0.080
動機付け小群	-0.247	-0.063	-0.045	-0.193	0.160
卒業後の進路志向別					
看護助産師群	0.083	0.047	-0.098	0.030	-0.093
その他群	-0.177	-0.101	0.209	-0.063	0.198

* : p < 0.05

ドサイドケアに携わる看護職を志望する割合が高いことが明らかとなった。以上のことから、看護大学生の入学時における卒業後の進路志望には、家族背景や入学動機が大きく関わっていることが考えられる。

2. 看護大学生の看護イメージ

本学の看護大学生の看護イメージは、「自由な」以外のすべての項目で4.0以上であり、全体に好イメージ寄りであることが明らかとなった。これは、看護大学生を対象とした先行研究^{6,11)}の結果とほぼ一致した。

看護イメージを背景別に比較してみると、家族背景あり群となし群での有意差がある項目が5つと多く、入学動機別・進路志望別ではそれぞれ「温かい」・「なりたい」の1項目で差があり、それ以外はほぼ同じイメージプロフィールであった。また、各因子の因子得点を背景別に比較した結果(表7)、第1因子『看護の特性因子』において、看護職に従事している人が身近にいる学生の方が、そうでない学生よりも得点が高かった。以上のことから、本学の看護大学生の看護イメージは、看護職に従事している人が身近にいる学生の方が好イメージ寄りであることが特徴であるということが明らかとなった。これは、「看護学生と話したことがある学生、親戚に看護婦(士)がいる学生が好イメージ寄りであった」とする左脇ら⁷⁾の報告と同様の結果であった。一方で、本学学生の看護イメージにおける因子得点の比較では入学動機別・進路志望別でほぼ差がなかった。このことから、「入学時の看護婦志向性でみると、看護婦を目指さずに入学してきたグループのほうが、好イメージ寄りである」とした真鍋ら⁶⁾や、「主体的に入学を希望した学生がそうでない学生より2因子において好イメージであった」とした山本¹¹⁾らの報告とは異なった結果となった。以上のことから、本学の看護大学生の看護イメージの特徴として、入学動機や進路志望の影響はかなり少ないのではないかと考えられる。

また、本研究では因子分析の結果5因子が抽出され、研究者間で『看護の特性因子』『看護の価値因子』『看護師の外観因子』『看護の労働性因子』『看護師の知的因子』と命名した。本研究と同じ調査内容を実施した先行研究^{1,3,14)}や、調査項目の内容は同一ではないが、同様の看護イメージについてSD法を用いて調査を実施し因子分析を行った研究^{5,7,10,11)}と比較すると、看護の特性・外観・労働性・重要性・専門性(本研究では知的因子)といったところで一致している面が多く見られる。以上のことから、今回抽出された因子は、先行研究で抽出された因子と類似しており、妥当性があると考えられた。また、累積寄与率が36.1%と低かつ

たことに関しては、看護大学生の抱いている看護イメージにばらつきが大きかったことが原因であると考えられ、学生の考え方が多様化していることも推察された。看護学生の看護イメージについて調査した研究はさまざまあるが、その中で「入学時の看護イメージよりも2年生の看護イメージは低くなる。その理由は看護イメージが理想から現実へと変化していくためではないか」という見解が多かった。しかし、真鍋⁶⁾らは、「短大生は学年が進むにつれてイメージが後退していたが大学生は肯定的イメージになっていたこと、その原因はカリキュラムに一般教養が存在することが影響しているのではないかと報告している。このことから、本学学生の看護イメージに関しても継続的に把握する必要があり、また同時に、学生の現在の好イメージをいかに授業や実習の中で維持していけるかが今後の課題であることが示唆された。

結 論

看護大学生の看護イメージを把握し、入学時における卒業後の進路志向と家族背景・入学動機との関連について検討した結果、以下の結論を得た。

1. 本学の看護大学生は、「自由な」以外の項目で看護に対して好イメージ寄りである。
2. 家族背景別では、看護職が身近にいる学生のほうが、そうでない学生よりも「重要で、価値がある、特色がある、面白い、なりたい」という看護イメージを抱いている人が多かった。因子分析の結果、『看護の特性因子』において、家族背景あり群のほうが、家族背景なし群よりも好イメージであった。家族背景別に進路志望を比較した結果、家族背景あり群において看護・助産師を志望する学生が有意に多かった。
3. 入学動機別では、「看護職にあこがれたから」という積極的な動機を持って入学してきた学生のほうが、そうでない学生よりも「温かい」という看護イメージを抱いている人が多かった。入学動機別に進路志望を比較した結果、動機付け大群において看護・助産師を志望する学生が有意に多かった。
4. 卒業後の進路志望では、看護・助産師群の学生の方が、「なりたい」という看護イメージを抱いている人が多かった。
5. 因子分析の結果、入学動機別・進路志望別で因子得点に差がなかったことから、本学学生の看護イメージの特徴として、入学動機や進路志望の影響はかなり少ないと考えられる。

おわりに

本学における看護大学生の看護イメージは全体的に好印象であり、卒業後の進路志望については、家族背景や入学動機が影響していることが明らかとなった。学生の看護イメージは、学生の背景だけでなく、一般教養や専門教育などのカリキュラムの進行に伴って変容することが考えられるため、今後縦断的に調査を行っていく必要がある。

引用文献

- 1) 大石杉乃, 長田久雄・他: 看護婦に対するイメージに関する調査(2)－看護学生の入学直後から卒業前までの変化－. 日本看護学教育学会誌4(2): 110-111, 1994
- 2) 鶴田来美, 工藤綾子・他: 短大生の学年による看護婦志向性と看護婦イメージに関する研究. 順天堂医療短期大学紀要7: 72-82, 1996
- 3) 石井範子, 志賀令明・他: 看護学生の看護に対するイメージの変容について－基礎看護学見学実習前・後の比較－. 秋田大学医短紀要2: 91-97, 1994
- 4) 石井範子, 平元泉・他: 学校種別に見た看護学生の看護に対するイメージについて(1)－入学時の検討－. 秋田大学医短紀要7(2): 117-121, 1999
- 5) 藤田智恵子, 山田皓子・他: 保健医療福祉学部大学1年生の職業イメージ－看護, 理学, 作業, 社会福祉学科の比較. 日本看護学教育学会第11回学術集会講演集: 206, 2002
- 6) 真鍋淳子, 野尻雅美・他: 看護学生の看護婦イメージの研究 大学生と短大生の比較. 看護教育35(6): 427-433, 1994
- 7) 左脇克彦, 中野正孝・他: 大学生の保健医療従事者のイメージに関する研究(1)－看護婦(士)について－. 日本公衆衛生雑誌42(10): 493, 1995
- 8) 藤原由佳, 内正子・他: 大学生の看護者に対するイメージの変化－初期体験実習前後の比較から－. 日本看護学教育学会誌10(2): 135, 2000
- 9) 門脇千恵, 臼井千津: 看護系大学生がもつ看護職に対するイメージ構造. 日本看護学教育学会誌10(2): 179, 2000
- 10) 長谷川小眞子, 山田要子・他: 看護職に対する学生のイメージについての検討－看護大学生と看護職従事者が持つイメージの比較から－. 日本看護研究学会雑誌24(3): 191, 2001
- 11) 山本美紀, 山口佳子・他: 看護大学生が入学時に持つ看護イメージ－イメージに影響する要因との関連－. 日本看護研究学会雑誌23(3): 236, 2000
- 12) 村田勝敬, 矢野栄二: Evidence Based Medicineのための医学統計 SPBSの活用法. 南江堂, 東京, 2002
- 13) 石井範子, 平元泉・他: 看護学生の看護に対するイメージの変容について(2)－縦断的方法による検討－. 秋田大学医短紀要5: 51-56, 1997
- 14) 石井範子, 平元泉・他: 学校種別に見た看護学生の看護に対するイメージについて(3)－縦断的方法による検討－. 秋田大学医短紀要8: 23-29, 2000

Study of New Nursing Students' Image of Nursing: Relationship between Students' Background and Motives for Admission, and Preferred Course after Completion of Education

Yukiko KUDOH Noriko ISHII Izumi HIRAMOTO
Makiko SASAKI Makiko HASEBE

Course of Nursing, School of Health Sciences, Akita University

The purpose of this study is to analyze the relationship between students' background and motives for admission, and their preferred course after completing nursing education, by researching new nursing students' image of nursing. We presented 20 pairs of adjectives relating to the image of nursing to 71 nursing students who were surveyed. In all items apart from "Independent" the students' image was above 4.0, indicating a predisposition towards a positive image of nursing. Factor analysis resulted in five categories: "attributes of nursing", "value of nursing", "appearance of nurse", "characteristics of nursing work", and "intellect of nurse". Students with persons close to them working in nursing had a better image than those who did not. Further, Students with persons close to them working in nursing and whose motivations were clear at the time of admission tended to aspire to work of nursing with beside care as a focus.